

「世界遺産学習研修会」を終えて(1)

12月25日(金)に、文部科学省「グローバル人材の育成に向けたESD推進事業」として「世界遺産学習研修会」が、帝京大学福岡キャンパスで開催されました。「明治日本の産業革命」として世界遺産に登録された地域の代表者が集まり、世界遺産学習や学校の取組の交流を行いました。本市からは、米生中と大正小の実践発表がありました。

【各都市の遺産紹介】

- 鹿児島市教育委員会・旧集成館の紹介
- 岩手県釜石市生涯学習文化課・橋野鉄鉱山、高炉跡の紹介
- 長崎県長崎市立梅香崎中学校の取組の紹介
- 大牟田市世界遺産登録 文化財室・大牟田市の世界遺産の紹介
- 熊本県荒尾市立万田小学校の取組の紹介
- 宇城市世界遺産推進室・世界遺産についてワークショップを行った紹介
- 北九州市世界遺産登録推進室・官営八幡製鉄所の紹介
- 中間市生涯学習課・遠賀川水源地ポンプ室の紹介



【大牟田市立米生中学校の実践発表】

- 米生中の地域は、高齢化が進んでいることや世界遺産があることから、総合的な学習の時間は、地域と共に生きること(福祉に関わる・地域遺産に関わる・生き方に関わる)を中心に学習を進めてきた。
- 【学習1】で世界遺産について、小学校で学んできたことを交流する、【学習2】で見学や出前授業の話聞いてもっと深く知り、まとめたことを学習発表会で発信するというものであった。7月の世界遺産登録決定を受け、「私たちの地域の宝物を世界へ発信」をテーマに掲げ、【学習3】もっと世界遺産を深く知ろう、【学習4】地域の宝物を世界に発信しようの学習内容を加えていった。
- 【学習3】では、生徒が地域の方や家族にインタビューを行い、当時炭鉱で働いていた人々や地域の人々の思い・願いを肌で感じる事ができた。【学習4】では、世界遺産アカデミー事務局長の猪俣さんを招き、世界遺産基礎講座を開いた。生徒達は、資料やウエルカムボードを作成したり、宮原抗をガイドしたりした。
- 「世界へ発信」の実現のために、生徒達で話し合ったプロジェクトNo.1「フォトコンテスト」を行った。プロのカメラマンからレクチャーを受け、今まで自分達が出会った方々の思いや世界遺産の重みを感じながら、生徒一人一人が撮影会に臨んだ。フォトコンテストは大成功。中心になって動いた生徒達は、満足感を感じながらも、企画・運営の反省を行い、次のプロジェクトにつなげていった。
- 成果としては、学習意欲の向上・主体的に取り組む態度の高まり・コミュニケーション能力の向上・つながりを尊重する態度の育ち・郷土愛の深まりが挙げられる。

大牟田市立みなと小学校の実践



「三池港のひみつをさぐるう」を通して

みなと小学校の4年生は世界遺産に登録された「三池港」の学習を行いました。

三池港の昔と現在について、三池港・みなと振興室の方を招いた後、実際に三池港に見学に行きました。子どもたちは改めて歴史の長さを感じ取りました。大牟田の未来を見すえた団琢磨さんの思い、自分たちが話を聞いて学んだことなど、伝えたいことをまとめ「三池港クイズ新聞」を作成しました。たくさんの人の努力によって今の大牟田の生活があることをみんなで学習し、持続発展していく地域のことを考える素地となりました。



大牟田市立大正小学校の実践

「大浦小との世界遺産学習の交流」を通して

大正小6年生は、修学旅行の時に長崎市立大浦小学校を訪問し、世界遺産学習交流会をしました。はじめに大正小が、今まで調べてきた大牟田の宮原坑や三池港について発表し、大牟田の世界遺産の素晴らしさを大浦小の6年生に伝えました。次に、大浦小の6年生が子どもキッズガイドとして、校区にあるグラバー園や大浦天主堂をグループに分かれて案内してくれました。距離は離れているけれど、同じ時代に活躍したそれぞれの世界遺産を誇りに思い、もっと多くの人に郷土の素晴らしさを伝えたいと確認し合った交流会となりました。

